

審判員派遣報告書

派遣事業名	令和5年度第76回全国高等学校 バスケットボール選手権大会	派遣期日	令和5年12月23日～24日
報告者	大西 空	派遣先	東京都

1 大会概要

大会名称	令和5年度第76回全国高等学校 バスケットボール選手権大会	大会期間	令和5年12月23日～29日
大会概要	各ブロック、都道府県、によるトーナメント		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和5年12月23日	会場	武蔵野の森総合体育館
審判クルー	CC: 目崎一将氏（東京） U1: 大西空（香川） U2: 赤沼裕紀氏（東京）		
担当試合	明德義塾高等学校（高知） VS 東海大学付属札幌高等学校（北海道）		
試合内容	明德義塾の勝利。		

日程	令和5年12月24日	会場	東京体育館
審判クルー	CC: 大坪綾音氏（千葉） U1: 石河宏美氏（福島） U2: 大西空（香川）		
担当試合	滋賀短期大学付属高等学校（滋賀） VS 日本航空高等学校（山梨）		
試合内容	日本航空の勝利。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●試合を通して

1 本目のゲームはファウルは少なく、ヴァイオレーションの数も比較的少なかったと思います。数が少ないからこそ正しい判定を積み重ねていく必要を感じました。吹いたもの、吹かなかった物特に吹いたもので本当に必要だったかなどは考えなければいけないと思いました。事実、責任、影響とくに影響までしっかり見極め判定に繋げるのは必須だと思いました。

2 本目のゲームは前半から判定するものは多かったと思います。終わった後に判定したものの中で1.省けるものはなかったか 2.吹くことで次を予防する働きかけはクルー・個人としてできなかったか 3.選手への声のかけ方をご指導いただきました。

吹くだけが正しいのではなく、吹くことによって何を伝えたい、やめさせたいのかを伝えられる吹き方、またそのときに選手への声掛けの仕方は今後の活動で意識していきたいです。

両ゲーム共に留学生の選手がいました。どう自分の判定を伝えるかは工夫が必要だと感じました。判定したものに対してそんなに大きくアピールしてくるタイプではなかったのですが、聞かれることはありました。その時に言葉を喋ることができればスムーズに進むのですが、私は喋る事が

できないため、ジェスチャーと日本語で話すことしかできませんでした。簡単でいいので喋れる様にはなりたいと感じました。

プレーコーリングとメカニクスについてですが、振り返りの時にどちらに責任があるのか見極めるオフェンスに責任があるんじゃないか（ディフェンスファウルにしたケース）など細かなポジションアジャストを実践していく必要があると思いました。自分の一番の課題は的確なプレーコーリングにあると痛感しました。

●その他

この度は、派遣に際してご理解とご支援頂いた香川県バスケットボール協会の皆様心より感謝申し上げます。今回の経験、知り得た知識を県内に還元できるよう活動に励んで参りますので引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします